

第37回新大大会Day 2 兼 新潟県協会杯

コース解説

E-a 3→4

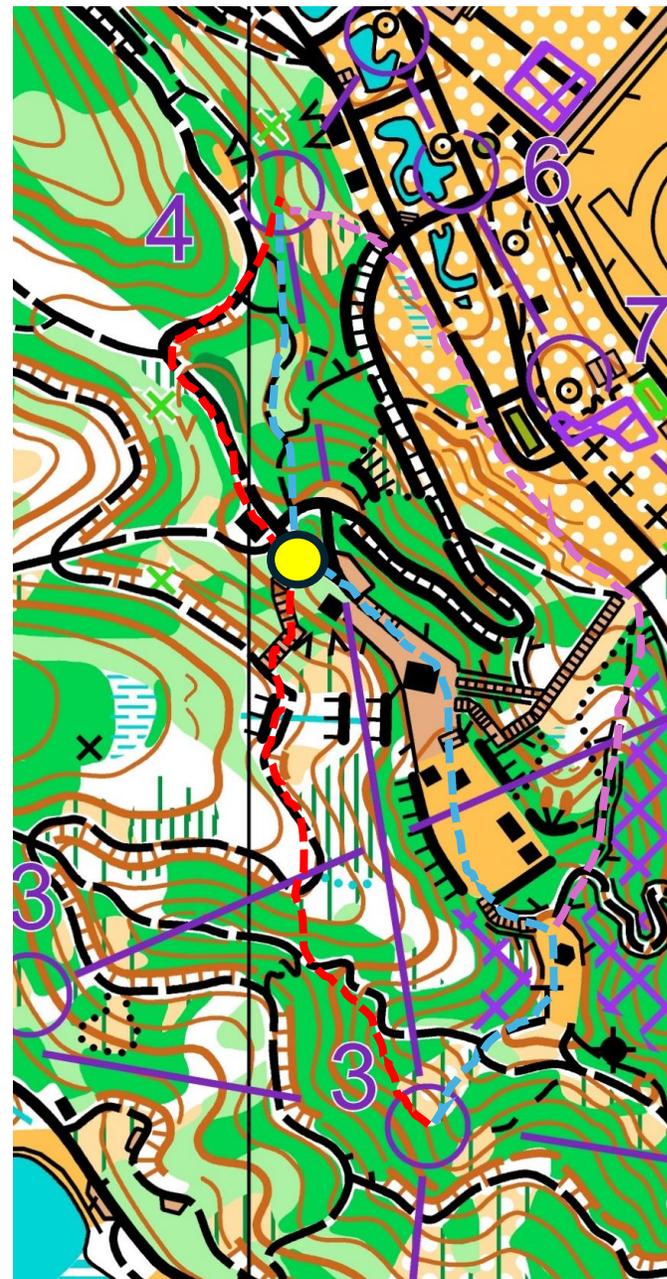
前半と後半で2つのルートチョイス。

前半は最初にピークまで登って神社エリアを下るルート（青）とC藪を切りながら小径まで降り階段を登るルート（赤）が考えられる。

青だと脱出時に膨らみすぎるように見えるが、赤は2回C藪を通過し、登りも階段であることからかなりの減速につながる。よって最速想定は青。

後半は青を読めていて実行できるかの勝負。前半の登りで読み切っておきたい。

なお前半の青ルートでピークまで登ったあとに公園まで下り、下からアタックする紫ルートも考えられる。最速想定ルートと比較して登距離はやや増えるが、距離はほぼ変わらない。ナビゲーションの負荷も低く、公園エリアのコンプレックに備えることもできるのが強み。



後半	200m ↑ 0m
	160m ↑ 0m
	510m ↑ 30m
前半	280m ↑ 25m
	340m ↑ 20m

E-a 10→11

どこで小径を下るかのルートチョイス。

下るのが早すぎても遅すぎても距離が伸びてしまうように設定した。最速想定は距離が短く、道を下れる青だが、下る途中で道のカーブから荒地に抜けないと（最後まで小径を降りてしまうと）20~30m距離が延びてしまうため、注意が必要。

580m ↑ 0m

530m ↑ 0m

540m ↑ 0m

590m ↑ 0m



E-a 13→14

670m ↑ 35m

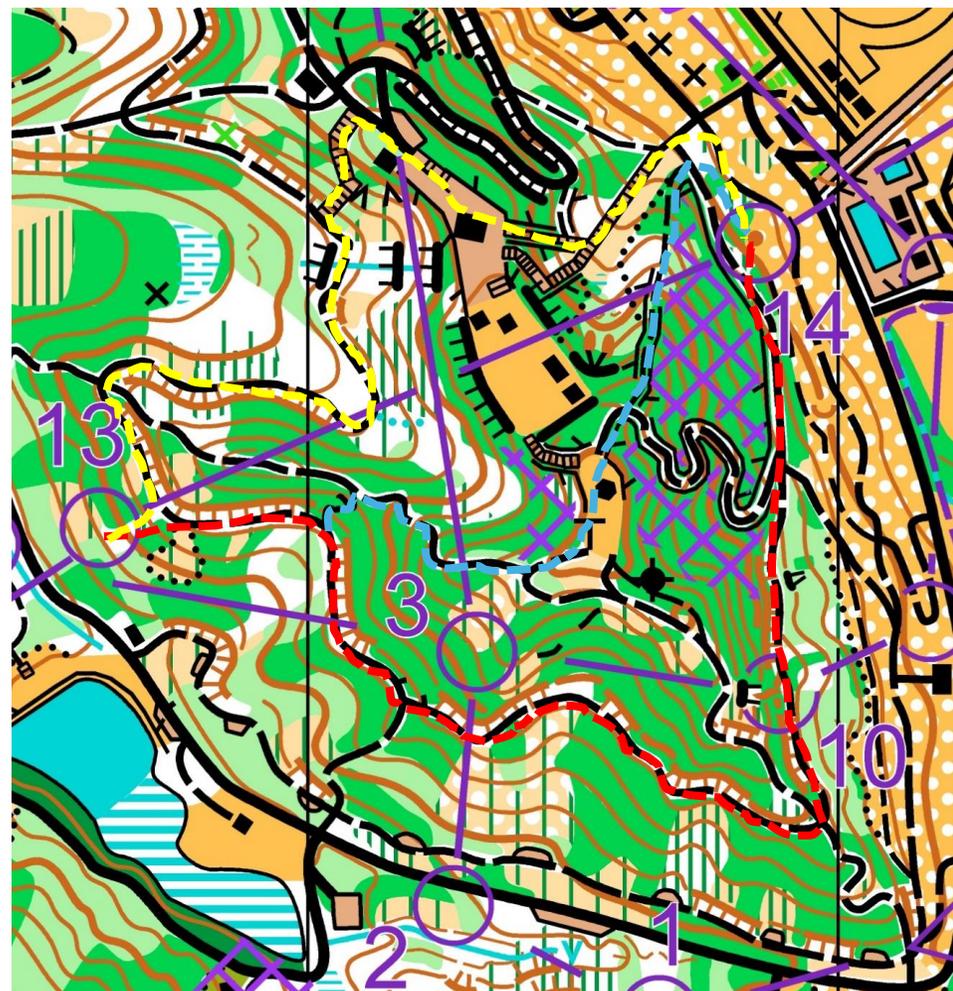
510m ↑ 55m

730m ↑ 30m

コース終盤の勝負レグ。

おそらく最初に見えるルートはレグ線から最も近い青だが、ここまでの登りのきつさからこのルートを選ぶ人は少ないと予想される。そして、一度見えた青ルートと同じ方向にある赤ルートが次に見えるのではないだろうか。しかし、最速想定は黄。赤は一見山塊を巻いていて登距離が少なく見えるが、意外と小径上でのアップダウンが多い。登りから逃げずに黄ルートを選択し、後半に連続する細かい方向転換をミスなくこなせるかがポイント。

想定は黄→赤→青の順。

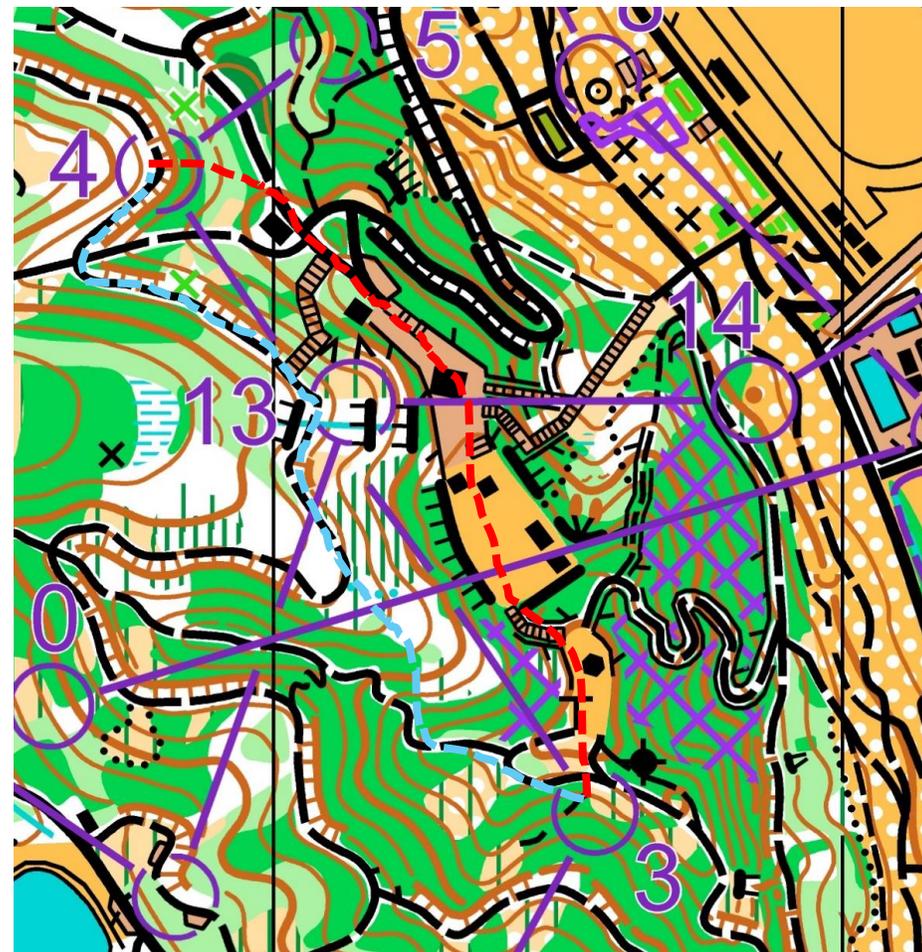


E-b 3→4

最速想定は**赤**。

4ポが道の上にあるため早めに下ってしまいたくなるが、**青**は最後のカーブで距離が伸び、初めにピークまで登る**赤**ルートの方が80m短い。脱出方向でルートが決まるため、ルートチョイスを慎重に行いたい。

440m ↑ 5m
360m ↑ 10m



E-b 5→6

差が生まれるルートチョイス
レグ。最速想定は黄。

レグ線方向に脱出すると、赤
のように最後の藪と崖に阻まれ
る。時にはレグ線と逆方向に
脱出することも大切。

340m ↑ 5m
240m ↑ 10m
240m ↑ 5m

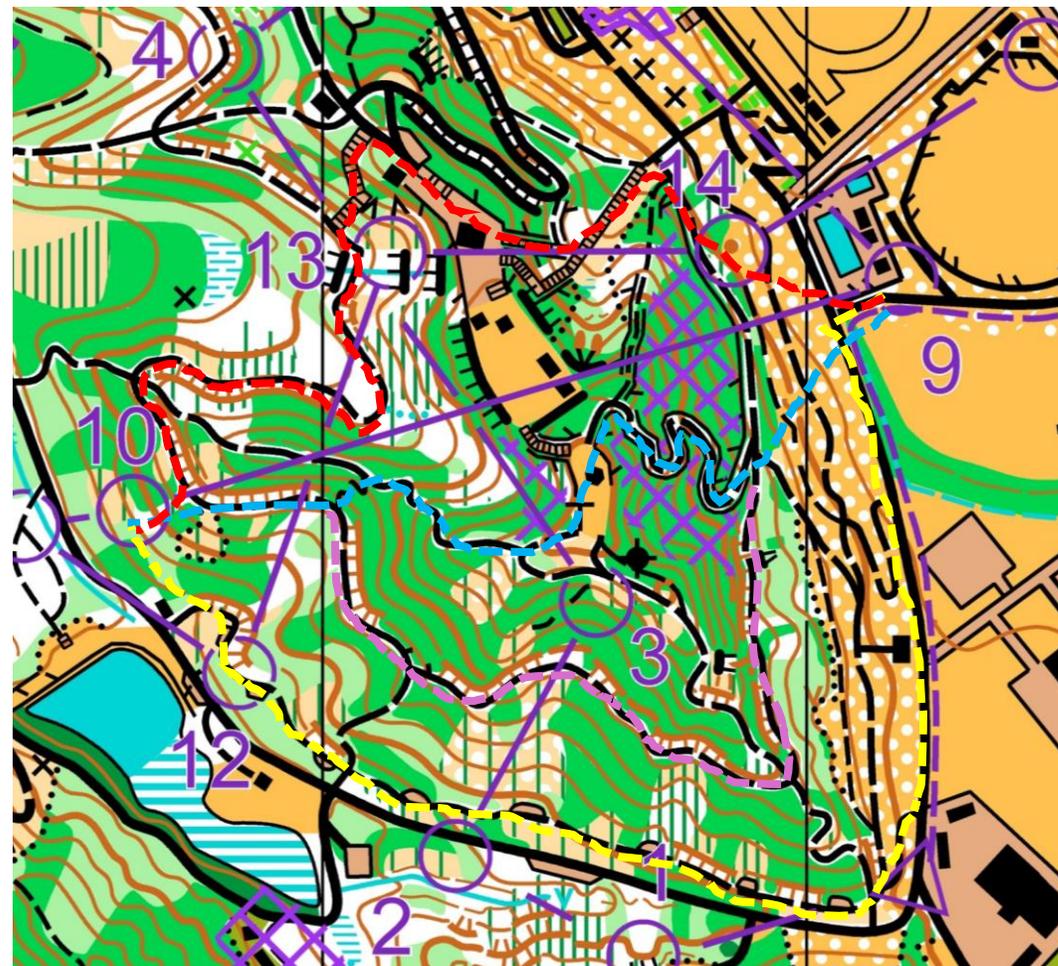


E-b 9→10

ビジュアル直後の勝負レッグ
大きくは、山塊を登る赤・青ルート
と山塊を巻く黄・紫ルートに分かれる。

1レッグだけ考えると最速想定は
紫だが、このレッグで勝負をかけて
青を選択したり、最後の登りに備えて
黄を選択するのもあり。

780m ↑ 40m
680m ↑ 60m
760m ↑ 30m
830m ↑ 20m



E-c 2→3

序盤のロングレグ。

レグ線に沿って一回鞍部を超える（赤/青ルート）か、ピークまで登り切るか（黄）。

青or黄ルートを選べれば大きな差はつかないため、自分の選んだ方のルートに自信をもって走ることが大切。ただ、黄ルートは最初の登りがずっと不整地のため、スピードを保って走れるのは青ルート。

赤ルートは最後小径の分岐ではなく道の曲がりあたりから直進することで距離を抑えることができるが、藪が濃くタイムは全て小径を走った時と同程度だろう。

730m ↑ 40m
620m ↑ 55m
630m ↑ 60m



E-c 11→12

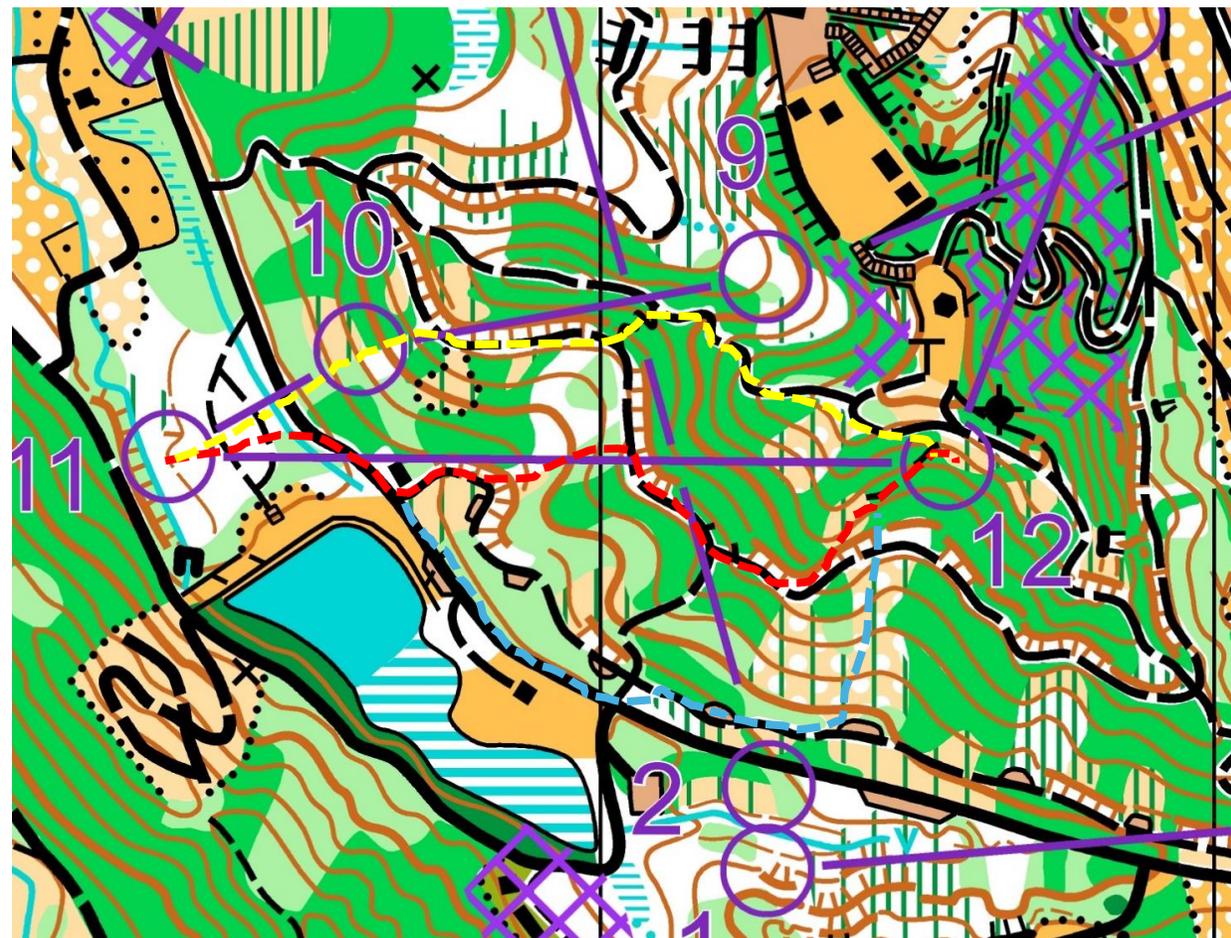
380m ↑ 65m

410m ↑ 60m

470m ↑ 60m

コース終盤、勝負の登りレグ。

最速想定は黄。10ポ方向に戻るような脱出をしてピーク近くまで道をつなぐ。赤・青と比べて道を走れる時間が長く、走りながら登ることができるのが一番の強み。一番きついところだが、何となくでレグ線方向に走るのは避けたい。



おわりに

まずはじめに、Day2はエントリー開始後の競技エリア縮小と
なってしまったことについて、参加者の皆様にはお詫び申し上げ
ます。また、それにも関わらず、多くのご参加をいただき本当に
ありがとうございます。どうしても登距離が増えてしまうテレ
インであるため、可能な限りルート選択の幅を増やしたただ辛いだ
けのコースにならないようにすることを一番に心がけました。ま
たテレインの狭さを考慮し、何度も同じ場所を走る鉄人の方でも
飽きにくいようなコース設定に努めました。

この2日間を通して少しでも新潟のテレインの良さに気づいて
いただける方がいればとても幸せです。改めて第37回新大大会
へのご参加ありがとうございました。来年度の新大大会にもご期
待ください。